



佐世保市立大塔小学校

所在地： 佐世保市もみじが丘町
6745番地

校長： 酒井元治

児童数： 607名

学級数： 24学級

学校教育目標： 子どもたちが自慢できる学校を！

～今に、未来に子どもたちが誇れる学校～



1 目的と主な実践内容

テーマ 子どもたちが自慢できる学校を！

～今に、未来に子どもたちが誇れる学校～

- (1) 未来に対する夢やあこがれを育む。
- (2) 年長者を敬い、感謝する心や弱者をいたわるやさしい心を育む。
- (3) 「ふるさと・佐世保」に目も向け、豊かな自然を守り、住みよい環境をつくっていこうとする心を育む。さらには「自慢できる学校」を合言葉に、愛校心を育てていく。

「地域との絆」を深める取組

- ①夢やあこがれを抱く「キャリア教育」「修学旅行」(6年)
- ②地域自然環境を考える「宿泊体験」「地域環境学習」(5年)
- ③地域の福祉について考える「福祉事業所交流活動」(4年)
- ④佐世保の良さを発見する「ふるさと学習」(3年)
- ⑤地域との絆を深める「町探検」(2年)
- ⑥幼稚園・保育園との交流学习(1年)
- ⑦地域住民による登校見守りボランティア

図書ボランティア「ダンデライオン」との連携

確かな学びを支える学力向上の取組

- ①確かな学力を定着させる「きめ細かな学習指導」
「習熟度別少人数指導」「学力調査の分析活用」
- ②ICTを効果的に活用し、授業改善を図る「校内研究」
- ③基礎学力の定着を図るための「学習規律の徹底」
「家庭学習の習慣化」
- ④言語活動の充実を図る「図書館整備」「掲示教育」

「豊かな心」を育む取組

- ①家族への感謝の心を育む
「感謝の気持ちをるえる会」(4年)
- ②芸術文化・スポーツへの興味関心を
高める体験学習(全学年)
- ③人権意識を高める「福祉体験」「国際理解教育」
- ④人間関係形成力と社会参画意識を向上させる
ための児童会スローガン(児童会)


2 実践内容



(1) 「豊かな心」を育む事業

児童の心の健康を育む取組 (全学年・6年)	
取組の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ スクールカウンセリング等の活動をとおして、児童の健やかな心の健康をはぐくむ。 ○ 子ども・保護者のニーズに応じた講座の充実を図り、心身の健康をはぐくむ。
取組の内容 実施時期・通年	<ul style="list-style-type: none"> ○ ハートルーム(相談室)を活用し、SCによるカウンセリングを希望者に実施。 ○ ハートルームの設備を充実。(心のリフレッシュができる校内での居場所づくり) ○ 薬物乱用防止教室(6年)の実施。 ○ メディア安全教室(6年及び保護者)の実施。(学校保健委員会との協同)
取組の成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ SC勤務日には、児童及び保護者とのカウンセリングが計画的にできている。必要に応じて継続的なカウンセリングができた。ハートルームの備品を充実させることで、利用児童の心の安定を図ることができた。 ○ 薬物乱用防止教室では、佐世保ライオンズクラブを講師に招き、6年生を対象に講座ができた。薬物乱用の低年齢化が見られる昨今、情報に惑わされない正しい知識を得る機会となった。また、メディア安全教室では、児童の実態に即したメディアリテラシーについて学ぶ機会を設けることができた。安心安全メールによる資料提供を通して保護者全体の啓発にも取り組めた。



インクルーシブ教育の推進(4年・特別支援学級)	
取組の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者や体の不自由な人々との交流を通して、相手を思いやる気持ちを育む。4年 ○ 他者意識に立って考え行動し、他人を認める社会をつくろうとする態度を養う。
取組の内容 実施時期 通年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 佐世保市の福祉の現状について学び、日常にある「生活上の困り感」を知る。 ○ ユニバーサルデザインについて学び、他者意識に立ち、考え行動する大切さを知る。 ○ 特別支援学級において、体験的活動を充実し、経験を通し「生きる力」をはぐくむ。
取組の成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会福祉協議会と連携し、講師を招き体験的な活動を通して有意義な学習ができた。 ○ 特別支援学級における「日常生活」「自立活動」「総合的な学習の時間」を活用して、梅干し作り、银杏あつめ、クリスマスケーキ作り等、自然や人とのふれ合いによる豊かな体験学習を実施することができた。他者と関わり、人に認めてもらう経験を通して、自信をもって自己表現できる姿が増えた。加えて、特別支援学級が生き生きと活動する姿を、全校児童が目にする機会ができたことで、全校的にインクルーシブ教育を押し進めることができた。


見つめよう自分の成長 ～大きな夢にむかって心をはぐくむ表現活動～(2・5・6年)	
取組の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 将来に対する夢やあこがれをもち、目標をもって努力しようとする意欲を高める。 ○ これまでの成長を振り返り、自分を支える人々への感謝の気持ちをはぐくむ。
取組の内容 実施時期 1～2月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のこれまでの成長を振り返り、周りの人々の支えに気付かせる。 ○ 自分の将来の夢や目標を発表させる。(伝えるために工夫をさせる。) ○ 自分に対する家族や先生方の思いを知らせる。(自己肯定感の育成)


<p>取組の成果</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生まれてからの自分のあゆみを調べたり、これからの自分の将来について考えたりしたことを発表する活動は、児童が自分をこれまで支えてきた人への感謝と、自分の将来への決意を新たにする上で、効果的であった。 ○ 高学年においては、授業参観で発表する機会を設け、自分の言葉で表現する体験が十分にできた。
--	--


愛校心をはぐくむボランティア活動（全学年）	
<p>取組の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 奉仕活動の意義や喜びを感得させ、学級集団、学年集団の絆を深める。 ○ 学校の美化に関わることで、自分の学校を大切にしようとする心や公共心を養う。 ○ 表現の場を設け、「飛び出す力」（「自己表現」「他者理解」）の心情をはぐくむ。
<p>取組の内容 実施時期 通 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の活動前や「大塔タイム（ボランティアタイム）」で実施する。 ・「えがお800運動」の計画・運営（各学年・学級・委員会） ○ 中庭発表会（なかよしライブ）による自主的、自治的でグローバルな校風をつくる。
<p>取組の成果</p>  	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「えがお800運動」は、「あいさつ運動」や「清掃活動」等、高学年や委員会にはじまり、全校的なボランティア活動として広がっている。活動を通して、異学年の交流が深まり、愛校心を育てる有意義な活動として定着している。「大塔タイム」についても校内外のボランティア活動を行い奉仕活動への意欲を高めることができています。 ○ 今年度、なかよし委員会が中心となり、エントリー制による「なかよしライブ」が年間4回実施できた。自由参加であり、友達とエントリーする子もいれば、一人でも挑戦する子や、劇やダンスに挑戦した学級もあり、多様性に富んだ活動を通してグローバルな教育活動が展開できた。取組を通して、多様な価値観を認めること、失敗を恐れずチャレンジすることが体现できた。

（2）「地域との絆」を深める事業

地域への愛着と生活習慣の徹底を図る活動（全学年・縦割り活動・集団登下校）	
<p>取組の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ コミュニティスクールによる学校サポーター事業に取り組み、地域の教育力を生かす ○ 異年齢の交流を通して、年長者を敬う心と年少者への思いやりの心を育む。 ○ 栽培活動を通して、学校や地域への愛着や命を大切にしようとする心を育む。
<p>取組の内容 実施時期 通 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度に続き、登校の見守りをしてくださっている方のベストを作成し配布した。 ○ P T Aによる「秋祭り」の開催におけるボランティア活動に参加する。 ○ 学校サポーター事業では、読み語り事業の充実、授業支援（児童の安全確保、職員の働き方改革の一助）といった教育活動の充実を図る。 ○ 異学年交流による花の苗植えの活動に取り組んだ。 ○ 栽培したプランターを地域の事業所等へ設置する。（日宇地区自治協議会との連携）
<p>取組の成果</p>  	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見守り時のベスト着用による「地域」への協働・連携のPR発信ができた。 ○ 11月にはP T Aによる「秋祭り」が開催され、多くの児童、保護者がボランティアとして運営のサポートに参加し、つながりを深めることができた。 ○ 2学期以降、学校サポーター事業が軌道に乗り、ミシン支援やまち探検引率補助等で地域のマンパワーを教育活動に取り入れることができた。校内には視聴覚室の半面を利用し、サポーターがゆっくりと滞在できる部屋（コミュニティルーム）を設け、打ち合わせや団欒の場をつくれたことで、協働意識の高揚を図れた。

伝統を受け継ぐ ～笑顔のバトンタッチ～ (5・6年)	
取組の目標	○ 6年生が最高学年として取り組んだことを5年生に伝えることで校風を育てる。
取組の内容 実施時期 2月	○ 6年生の最高学年としての取組を5年生に伝える。(笑顔のバトンタッチ) ○ 学校運営協議会で地域の学校への願いを話し合い、重点課題を明確にする。
取組の成果 	○ 6年生から5年生への思いや考えを伝える取組を行い、最高学年になる準備段階での次年度の実践への意欲を高めることができた。 ○ 6年生は劇で行事等を紹介した後に、グループ毎に分かれ質問コーナーを設け、5年生から自由に質問を受ける活動ができた。対話を通し、5年生の不安も解消した。 ○ 学校運営協議会をありがとう集会当日に行い、子どもの様子を見ていただいた後に会を開いた。学校での様子、地域での様子を話題に、地域での挨拶や登下校時の安全等について、協議を深めることができた。

地域の環境を考える ～地域環境学習～ (5年)	
取組の目標	○ 長崎県、佐世保市、大塔校区等、地域の自然や人と関わり環境に関心をもつ。 ○ 調べてわかったことを地域に発信することを通して、環境について考えを深める。
取組の内容 実施時期 通年	○ 佐世保エコラボと連携して学習することで関心を高め、保護者にも公開することを目標とし、表現力や計画性を高めさせ、達成感や充実感を味わわせる。
取組の成果 	○ 佐世保エコラボと連携し、多様なグループワーク活動に取り組めた。自分事と捉えることができおり、家庭・教室でできることを実践する姿が多く見られた。 ○ たくさんの企業とリモートで学習を行い、大きな成果をあげることができた。パナソニックによる出前授業も実施し、プロによる講義で理解を深めた。

佐世保の良さを知るふるさと学習 (3年)	
取組の目標	○ 自分たちの住む佐世保への関心を高める。 ○ 特産品や農業、漁業など様々な視野から佐世保の良さを知る郷土愛を高める。
取組の内容 実施時期 通年	○ 社会科見学を実施し、ふるさと佐世保の歴史や町を支える人々に関心をもつ。 ○ 発表を保護者にも公開することを目標とし、表現力や計画性を高める。
取組の成果 	○ 今年度は、インターネットによる調べ学習に加え、針尾みかん集積場、佐世保中央消防局等の見学に取り組み、体験的学習の充実ができた。 ○ 佐世保市の多様な「ひと・もの・歴史・施設・特産品」について調べる活動を通してふるさとのよさを知り、佐世保の良さを知り、郷土愛を高めることができた。まとめでは、プレゼンテーション作成など、多様な表現活動に取り組むことができた。

地域との絆を深める町探検 (2年) 幼・保・地域との交流学習 (1年)	
取組の目標	○ 地域への関心を高め、私たちの生活を支える人々へ感謝する心を育む。(2年) ○ 幼・保・地域の方との交流活動を通してコミュニケーション能力を高める。(1年)
取組の内容 実施時期 2学期	○ 学年での町探検に加え、保護者に協力していただき地域インタビューを実施する。 ○ 幼稚園・保育園との交流活動として、年長組の学習体験を実施する。 ○ 昔遊びの体験をとおして交流活動を実施する。
取組の成果	○ 本年度、11月に2年生3学級毎に校区内を巡る町探検を実施した。学校サポーターの協力を得ることで、安全面の確保ができ、有意義な活動となった。



- 昔遊び体験は、学年で実施した。地域との交流については、今後、もみじが丘紅友会と相談しながら、在り方を検討していく。
- 幼稚園・保育園との交流は今年実施できた。「秋見つけ」の学習で出店活動を行い、その時にどんぐりなどを使って作ったおもちゃを幼稚園児・保育園児に渡すことができ交流を図ることができた。

(3) 確かな学びを支える学力向上事業

一人一人に確かな学力を定着させるためのきめ細かな学習指導（全学年）	
取組の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちの学習状況を把握し、一人一人に応じた学習指導を行う。 ○ 「わかる授業」への改善を図り、すべての児童に充実感と達成感を味わわせる。 ○ 学習状況をもとに適切な助言を行い、家庭と連携して望ましい学習習慣を形成する。
取組の内容 実施時期 通 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 佐世保市の土台となる5つの考え方にに基づき、「『めあて』と『まとめ』を明確に位置づけた授業づくり」「つきたい力が明確に位置づけられた授業づくり」の共通理解・共通実践を通して、学力向上を図っていく。 ○ 今年度の校内研修では、研究主題「自分の思いをもって表現できる子の育成 ～ICTを活用した主体的・協働的な学びの創造を通して～」で授業研究を行ってきた。OJTの促進により、スキルの伝達・共有が図られ、授業内で効果的にICTを生かす効果的な場面の模索といった一歩進んだ取組ができたと自負している。 ○ 4年生は市学力調査、5年生は県学力調査、6年生は全国学力学習状況調査をもとに実態をつかみ、授業実践を重ね、算数の学力テストを全学年で実施し、取組の成果と課題を考察し、更なる授業改善に取り組むサイクルで学力向上を図っていく。 ○ 特別支援教育コーディネーターを中心に、時間割調整（支援計画）を毎日作成し、困り感のある児童に対して一人一人にあわせた細やかな支援体制の整備を行っていく。 ○ 家庭学習のしおりを全家庭に配付することに加えて、家庭アンケートにも取り組み、家庭での学習習慣と学習規律の定着、更に繰り返し学習による基礎学力の定着を図る。
取組の成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICTを活用した授業改善に全職員で取り組み、担任の大半がクラスルームの使い方にも慣れてきた。ジャムボードやスプレッドシートを日常的に使うことで子どもたちも扱いに慣れ、スキルが向上した。授業において「まずは使ってみる」という段階から、「効果的に使う」というステップに職員の意識も高まっており、「令和の日本型教育」の具現化ができてきた。 ○ 家庭学習のしおりの活用については、Googleformsによるアンケートを実施し、保護者の感想を把握することができた。各家庭による差はあるが、基礎基本となる宿題に加えプラスワン学習への取組が徐々に定着しつつある。

